

研究協力のお願

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

RTSA 症例の肩挙上動作の特徴 機種タイプの比較

1. 研究の対象および研究対象期間

対象は、藤が丘病院でリバー型人工肩関節全置換術（RTSA）を施行し、藤が丘病院リハビリテーション病院で外来リハビリテーションを行い、1年以上経過観察可能であった約 80 名を対象とします。対象期間は 2014 年 4 月～2024 年 12 月までに手術を行った方とします。

2. 研究目的・方法

【目的】

RTSA 後の患者さんの肩関節挙上動作は、健常者と比較して肩甲骨運動が大きくなると報告されています。我々は、RTSA 症例の挙上動作における肩甲骨・鎖骨の運動について、患側と健側を比較した検証を行ってきました。これは inlay タイプといわれる機種のみを対象としており、もう一方の onlay タイプは含まれておりません。また、この検討は使用機種間の比較検証は行われていません。そのため、RTSA 症例の挙上動作の肩甲骨と鎖骨の運動も含めた検討を行い、onlay タイプと inlay タイプで肩甲骨・鎖骨を含めた運動の比較することを目的としています。

【対象および方法】

対象は RTSA を施行し、1 年以上経過観察可能であった約 80 名を対象とします。肩関節可動域に関しては、通常の理学療法で定期的に計測する関節可動域の値を使用します。単純 X 線画像に関しても、通常の診察において定期的に撮影するものを使用します。統計解析に、Spearman の順位相関係数を用い、有意水準は 5%とします。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025 年 12 月 31 日までとします。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

2014 年 4 月から 2024 年 12 月に藤が丘病院整形外科にて RTSA を施行した患者データから患者背景（性

別、身長、体重、診断名、既往歴、現病歴)、肩関節可動域、単純X線画像を調査項目とします。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者

昭和大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻 前田 卓哉

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻

氏名：前田 卓哉 職名：理学療法士・講師

住所：〒142-8666 東京都品川区西中延 2-14-19

電話番号：03-3784-8989

E-mail：maeda.t@cmed.showa-u.ac.jp

研究責任者：前田卓哉